

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2021年11月12日）

## ■第1版 第1刷（2020年12月15日発行）～

## 第1版 第2刷（2021年 2月25日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
2章-1 証の概念					
31	本文上から1行目	多くに西洋薬は1種類の化合物	多くの西洋薬は1種類の化合物		21/11/12
2章-2-2 陰陽と虚実・寒熱・表裏					
35	本文下から12行目	過程をも表現します。	過程も表現します。		21/11/12
2章-2-3 六病位					
45	本文上から14行目	また、実際の臨床では、太陽病の <u>後</u> で陽明病になるなど、さまざまな経過を辿ることがあります。そして病が治らずに遷延すると生体は陰の状態に陥り、陰病に陥り、	また、実際の臨床では、太陽病から <u>すぐ</u> に陽明病になるなど、さまざまな経過を辿ることがあります。そして病が治らずに遷延すると生体は陰の状態に陥り、 <u>すなわち</u> 陰病に陥り、		21/11/12
45	column2段目の上から3行目	また陽明病まで行かないときには、太陽病の次は小陽病になります。		削除	21/11/12
2章-3-4 問診					
62	※1 システム・レビューの上から4行目	漢方における問診 <u>い</u> において	漢方における問診 <u>に</u> において		21/11/12
62	本文下から7行目の見出し	2) 症状の <u>憎</u> 悪・寛解因子	2) 症状の <u>増</u> 悪・寛解因子		21/11/12
3章-2-6 八味地黄丸					
119	Chart76		※1参照		21/11/12
119	本文下から9行目の見出し	補腎 <u>薬</u> の生薬構成	補腎 <u>剤</u> の生薬構成		21/11/12
119	本文下から8行目	五臓における「腎」の機能を補う漢方薬を補腎 <u>薬</u> といいます。代表的な補腎 <u>薬</u> には六味丸、	五臓における「腎」の機能を補う漢方薬を補腎 <u>剤</u> といいます。代表的な補腎 <u>剤</u> には六味丸、		21/11/12
123	本文下から6行目	これらの腎虚の症状に対する補腎 <u>薬</u>	これらの腎虚の症状に対する補腎 <u>剤</u>		21/11/12
3章-3 代表的な生薬の効能と知っておくべき副作用					
138	第3章のまとめの5	代表的な補腎 <u>薬</u> として八味地黄丸	代表的な補腎 <u>剤</u> として八味地黄丸		21/11/12
課題					
181	解答G解説の上から2行目	腎虚に対して補腎 <u>薬</u> を選択するが、本症例は冷えを伴っており、温める効果がある八味地黄丸が適応となる漢方薬となる。その他、補腎 <u>薬</u>	腎虚に対して補腎 <u>剤</u> を選択するが、本症例は冷えを伴っており、温める効果がある八味地黄丸が適応となる漢方薬となる。その他、補腎 <u>剤</u>		21/11/12

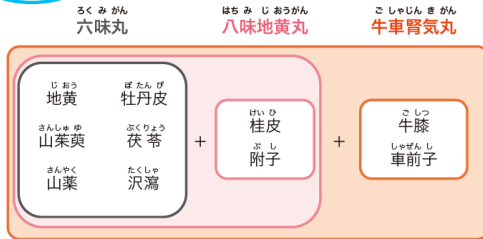
※1 青丸で囲みました部分の訂正をお願い申し上げます

Chart  
76

**補腎剤のポイント**

- 補腎剤は陰証、虚証、寒証、裏証、気虚、血虚、水滞、腎虚に用いる漢方薬
- 八味地黄丸は腎虚により生じる泌尿生殖機能低下、腰痛、下肢の冷えなどに用いる補腎剤として汎用される漢方薬
- 八味地黄丸よりも利水・血流促進作用が増強された牛車腎気丸がある
- 牛車腎気丸の抗サルコペニア効果における薬理機序が報告されている

**補腎剤の生薬構成**



『金匱要略』を出典とする八味地黄丸を基本に、小児用として六味丸が、宋代に、牛膝と車前子を追加し、附子を増量した牛車腎気丸がつけられた